

SPECIALIST



丹羽筆人(ふでひと)さん ■岐阜県生まれ。大学卒業後、河合塾で進学情報誌の編集などに携わった後、1999年来米。ニュージャーシーなどの補習校、学習塾で教師を務める。2006年に、米日教育協議会を設立し、日本でのサマーキャンプ開催などを手掛ける。

US-Japan Educational Exchange Council
www.ujeec.org

編集部が聞く

あの人のキーワード

各界で活躍する人にそれぞれにとってのキーワード、旬の話題を語ってもらいます!

米日教育協議会代表
丹羽筆人さん

キーワード

チャンスを逃さず、チャレンジ

米日教育協議会はどんな活動をしていますか?

帰国生の進路相談と、提携する塾や中学校、高校への紹介が二つの柱です。もう一つの柱は、海外生活が長い日本人の子供たちを対象に、岐阜で日本語と日本文化を学習するプログラム「サマーキャンプ・イン・ぎふ」を行っています。今夏で9年目、のべ176人が参加しています。

岐阜でのキャンプはど

んな内容ですか?

日本の学校への体験入学や、作法を学ぶための禅寺での修行、ホームステイ、地元の子供たちとの交流もします。また、岐阜の自然の中で川遊びやハイキングなどを楽しみます。

キャンプはすべて日本語で行い、地元の方たちとの会話も日本語ですから、自然と日本語を話す環境ができます。

もともと、このキャン

て出てきたアイデアがこのキャンプです。

海外に長く住み、同じ悩みを抱える日本人の親御さんのニーズもあると考え、始めました。

キーワードの「チャンス」を逃さず、チャレンジ」とは?

大学卒業後、入職した河合塾では進学情報誌の編集などをした後、留学教育の事業に携わりました。当時は海外と接点は全くありませんでしたが、とにかくやってみましたが、今につながっています。

米国に来たときには、教育以外の仕事の話もらってチャレンジしてみました。結果として、うまくいきませんでした。その経験があったからこそ、自分には教育関連の仕事が合っていることがわかりました。

チャンスは、どこから来るか分からないし、大変な苦勞を伴うこともありま。それを面倒だとか、そ

までしなくてもいいやと思わず、逃さないで、チャレンジすることが自分の成長にもつながります。

キャンプでも、初参加の子供たちは、何をやるのか想像ができなくて、期待と不安の混ざった気持ちでやってくる。でも、チャレンジをしなければ楽しいかどうかは分かりませんよね。

——これからの目標は?

海外で暮らし、国際感覚を身につけた子供たちは、いづれ国際的なリーダーになると思います。彼らをきちんと育てていくのが私たちの役割。彼らの飛躍するきっかけをつくれればいいと思っています。

編集後記

たいへんな思いもされながら続けているモチベーションは、「子供たちの成長が見たいから」と語る丹羽さん。教育が天職なんだなと思えました。
(田中)

きないかと思っ

機会が減りま

した。何とかで

日本語を学ぶ

なってしまう、

語が第一言語に

なってしまう、

日本語を学ぶ

機会が減りま

した。何とかで

きないかと思っ